

短 報

ハマハタザオの紅花品種 (中井秀樹・大橋広好)

Hideki NAKAI and Hiroyoshi OHASHI: Purplish Red Flowered Form of *Arabis stelleri* var. *japonica* (Cruciferae)

北海道北部宗谷支庁浜頓別町ベニヤ原生花園で紅花ハマハタザオを見出した。当地ではハマハタザオはふつう海浜砂丘の草地に生育するが、この紅花品種はミズナラなどからなる海岸林の林縁に見られ、そこは砂丘地と比べると比較的土壤が発達した所である。花弁の基部が紫紅花を呈するが、葉形などはハマハタザオと変わりがない。ハマハタザオの根出葉は裏面がしばしば紫色を帯びるが、そのような個体でも花弁は帯紫色となることはない。品種の階級で記載しておく。

Arabis stelleri DC., Reg. Veg. Syst. Nat. 2: 242 (1821).

var. *japonica* (A. Gray) Fr. Schmidt, Reis. Amurl. u. Ins. Sachal., 111 (1868).

Arabis alpina L. var. ? *japonica* A. Gray, Narr.

Exped. Amer. Squadr. Chin. Jap. 2: 307 (1857).

Arabis japonica (A. Gray) A. Gray, Mem. Amer. Acad. n. ser. 6: 381 (1859).

forma *purpurascens* H. Nakai et H. Ohashi, form. nov.

Floribus purpurascens vel purpureo-roseis, cetera ut in typo.

Japanese name : Benibana-hamahatazao.

Habitat: on the margin of sea shore forest dominated by *Quercus crispula*.

Type: Hokkaido; Sōya-shicho., Hamatonbetsucho, Beniya, H. Nakai 1001 (holotype, TUS) 1002, 1003 (isotype, TUS).

(東北大学理学部生物学教室)

ビッチュウアザミの分布 (上野達也)

Tatsuya UENO: Distribution of *Cirsium bitchuense* (Asteraceae)

ビッチュウアザミ *Cirsium bitchuense* Nakai は本州の兵庫県西部から中国山地の暖帯に分布するとされている (北村 1981)。ところが、1986年10月8日に、著者は伊吹山の岐阜県側 (温帯) で本種の自生を確認した。自生地は伊吹山ドライブウェイに沿った標高1,020 mの金明水と呼ばれる水場で、周辺にオオイタヤメイゲツ林のある南東向き斜面の草地であった。著者はそこで約40個体から成る集団を観察し、3個体を採取した。また、伊吹山ドライブウェイより笹又に通じる道の標高900~1,000 m付近でも、南向きの湿った林縁や林内に多数のビッチュウアザミを観察した。

Fig. 1は、国立科学博物館 (TNS)、東京大学理学部 (TI)、京都大学理学部 (KYO) の各標本

庫の所蔵標本、および、Kitamura (1937)、岡ほか (1972) に挙げられる証拠標本の産地に、今回の新産地を加えたビッチュウアザミの分布図である。分布の表示は日本シダの会 (1979) の調査メッシュに従った。Kitamura (1937) に記載され、かつ、3標本庫に所蔵されていた標本の内で、最も東に位置する産地は兵庫県豊岡市気比 (けい) (但馬国絹巻国有林。Z. Tashiro, Nov. 8, 1936, KYO) である。伊吹山の新産地はそれより東方に約140Km移った位置にある。また、新産地の標高は、著者が確認した標高を明示する引用標本のなかでは最も高い。なお、新産地の標本は国立科学博物館標本庫に納めた。

本稿をまとめるにあたり、御指導いただいた元

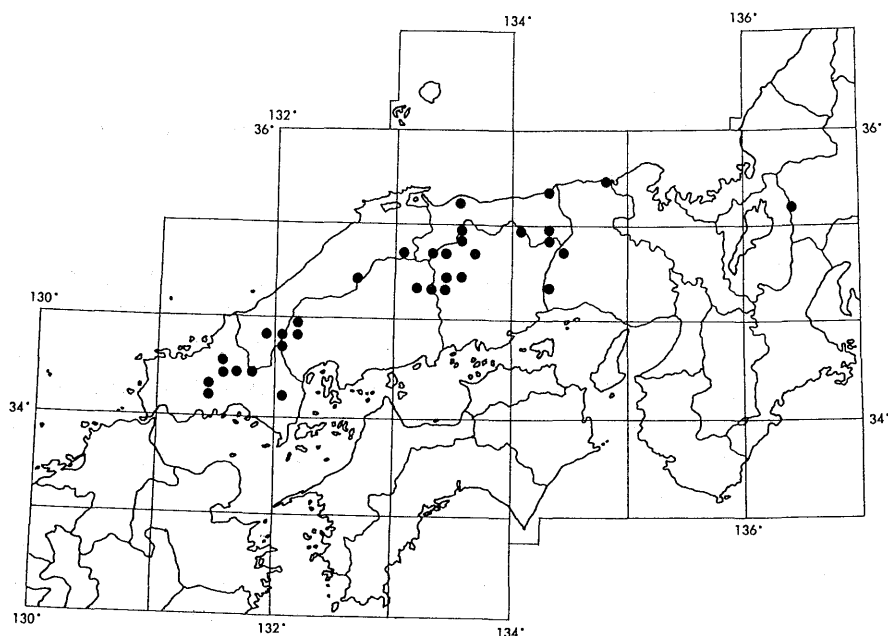


Fig. 1. Distribution of *Cirsium bitchuense* Nakai.

国立科学博物館の金井弘夫博士に厚く御礼申し上げる。また、同博物館の門田裕一博士、千葉県立中央博物館の中池敏之博士には様々に便宜をお計りいただき、京都大学理学部植物学教室および東京大学理学部附属植物園の方々には標本閲覧の便を与えていただいた。記して感謝の意を表す。

引用文献

- 岡 国夫, 真崎 博, 勝本 謙, 見明長門, 三宅貞敏
1972. 山口県植物誌, pp 607. 山口県植物誌刊行会, 山口.
- Kitamura S., 1937. Compositae Japonicae I. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., (B), 13: 32-135.
- 北村四郎 1981. アザミ属. 佐竹義輔ほか(編): 日本の野生植物 草本 III: 212-220, pls. 188-200. 平凡社, 東京.
- 日本シダの会 1979. 日本のシダ植物図鑑 第1巻, pp 628. 東京大学出版会, 東京.
- (東京都荒川区西日暮里 6-49-8 吉岡マンション-203)

引用標本

1. 引用標本の表記は、おおむね日本シダの会(1979)に従った。
2. *は、採集地名が複数の地図番号(メッシュ)に該

当する場合に、その地図番号で代表させた標本を示す。

3. **は、引用文献によったもので、著者が見ていない標本を表す。

岐阜県: [長浜-1] 春日村伊吹山金明水1020 m alt. (上野達也 1986. 10. 8, TNS).

兵庫県: [城崎-3] 絹巻国有林(田代善太郎 1936. 11. 8, KYO); [佐用-1] 三河村船越山(内海功一 1953. 11. 3, KYO); [上郡-4] 上郡町八保, 皆坂(黒崎史平・加藤雅啓 1982. 10. 16, KYO).

鳥取県: [浜坂-4] 摩尼山(木梨延太郎 1916. 10.-, KYO), 摩尼山(北村四郎 1931. 10. 31, KYO); [坂根-3] 智頭町芦津(山本 明 1976. 8. 22, TNS); [大山-3] 船上山(清水 1958. 9. 14, KYO).

島根県: [多里-3] *横田村(丸山 巖 1933. 11.-, KYO); [赤名-1] **女亀山(岸野 1932. 9. 8, -) Kitamura (1937) より; [三段峡-4] *匹見, 上村(田代善太郎 1937. 10. 23, KYO); [日原-2] *匹見, 下村(田代善太郎 1937. 10. 23, TNS).

岡山県: [坂根-4] 西粟倉村塩谷(難波早苗 1966. 9. 27, KYO); [智頭-3] 加茂町根知山(難波早苗 1957. 8. 18, KYO); [湯本-3] *川上村(神田 静 1932. 10. 7, KYO), *川上村(友金藤

吉 1932. 10. 30, TNS), *川上村(友金藤吉 1932. 10. 30, KYO); [湯本-4]新庄村毛無山(田代善太郎 1930. 10. 10, KYO); [勝山-1]勝山町神庭の滝(津田 1930. 10. 8, KYO); [皆部-3]石蟹郷村幸田(吉野善介 1913. 10. 11, TI), 石蟹郷村井倉(吉野善介 1913. 10. -, TNS), 幸田(吉野善介 1916. 10. -, TI), 新見市谷合(原 寛・黒沢幸子 1975. 10. 28, TI); [上岩見-1]花見山(田代善太郎 1930. 7. 29, KYO); [上岩見-3]野原スキー場(西原札之助 1950. 9. 16, TNS); [新見-1]川瀬(吉野善介 1912. 11. 18, TI), 上市村川ノ瀬(吉野善介 1912. 11. -, KYO), 上市村川ノ瀬(吉野善介 1914. 8. 8, KYO), 上市村川ノ瀬(吉野善介 1915. 10. -, TI), 上市村川ノ瀬(北村四郎 1936. 11. 24, KYO), 新見市阿哲峽(福岡誠行・黒崎史平 1975. 10. 1, KYO), 新見市川ノ瀬(福岡誠行・黒崎史平 1978. 9. 1, KYO); [新見-2] *新砥村(—— 1935. 8. 12, KYO).

広島県: [新見-4]東城町河内~哲西町川西, 280~350m alt. (黒崎史平 1987. 9. 26, TNS); [庄原-2]帝釈(—— 1931. 8. 上旬, TNS), *帝釈峽(北村四郎 1931. 11. 17, KYO), *帝釈峽(富山

1963. 8. 21, KYO) *帝釈峽(高藤 1968. 9. 12, KYO), 神石町帝釈峽(古瀬 1976. 10. 29, KYO); [三段峽-1]三段峽(佐藤達夫 1963. 10. 10, TNS), 戸河内町三段峽(北村四郎 1967. 10. 27, KYO); [三段峽-2] *吉和村(田代善太郎 1937. 9. 15, TNS); [津田-3]安芸冠山(津山 尚 1932. 8. 8, TI).

山口県: [津田-3]高根村寂地山(岡 国夫 1949. 9. 1, KYO); [岩国-3]周東町高森, 上川上(御江久夫 1954. 10. 19, KYO); [鹿野-3]鹿野町大平(御江久夫 1952. 9. 5, KYO); [徳佐中-4]阿東町長門峽, 湯瀬~銅(村田 源・岩槻邦男 1970. 10. 10, KYO); [長門峽-1]柚野村牛頭山(岡 国夫 1951. 8. 31, KYO), 滑山国有林(奥山春季 1970. 10. 6, TNS); [長門峽-3] *川上村長門峽(岡 国夫 1968. 11. 11, KYO); [山口-2]山口市法泉寺(岡 国夫 1949. 10. 14, KYO), 山口市法泉寺梅峯の瀧(中井猛之進・丸山尚敏 1949. 10. 14, TNS); [小郡-1] **山口市鼓の滝(岡 国夫 1949. 11. 3, 山口市立博物館)岡ほか(1972)より.

新刊

□Rajbhandari K. R.: *A Bibliography of the Plant Science of Nepal* 247 pp. 1994. 自費出版. Rs. 900 (送料別).

ネパール植物研究のための文献目録と索引である。著者ケシャブ・ラジバンダリ氏はカトマンズのトリブバン大学からゴダワリの植物調査所へ移籍し、日本への留学や何回ものヒマラヤ調査への同行で、われわれになじみの植物研究者である。3-164頁は目録で、約2500件の文献が第一著者のabc順に並ぶ。摘要がついたものが多い。共著者でも参照先がわかるようにしてある。165-205頁が項目索引であるが、その見出し語は実に多様である。たとえば Agriculture, Anatomy, Apple, Chromosome number, Fodder trees, Tannin, Thesis, Vegetation, Virus といった具合で、検索の対象となりそうな単語がみんな見出しとなっている。206-218頁は地域索引で、報文の対象となった地名をabc順に並べ、関係する文献を示す。219-244頁は学名索引で、属または種を見出しとして関係

文献を列举する。これらの索引ではほとんどの文献について、1~数語の内容紹介がされているので、一々目録に戻らなくても、ときには目録ではわからない内容を知ることができる。補遺が3頁ついている。著者の丹念な性格を示す労作で、ネパール植物研究にたいへん有用な必携書である。原稿作りと出版は著者夫人の手になる。入手については下記の著者自身に連絡するとよい。National Herbarium and Plant Laboratories, Godawari, Kathmandu, Nepal. (金井弘夫)

□石川県地域植物研究会(編): *石川県樹木分布図集* 489 pp. 1994. 石川県林業試験場. ¥6,000+送料¥800.

石川県の樹木447種類の水平分布図および南北方向の垂直分布図を示す。B5版1頁に1種類という贅沢な配置だが、分布図は地域の形に制約されるので、四角い頁に効率よく収めるのがむづかしい。分布点は5倍地域メッシュ(1/2.5万図の